

要を感じ、形態学的に分析を試みた。前回において、種類により澱粉粒の形が異り、大きさも大小があり、単粒複粒の現われ方、また hilum (澱粉粒の核) の位置の異なることを報告した。今回は引き続き行なって得た結果を報告する。

2. 試料として用いた澱粉粒は各植物の食用部から抽出し、精製したものである。形態の観察には、普通の顕微鏡のほか、位相差顕微鏡、偏光顕微鏡をあわせて用いた。また内部構造を観察するため、澱粉粒を含有する組織および抽出した澱粉粒をパラフィンに包埋して切片とし染色した。

3. 今回形態を観察した澱粉粒のうち、あずきの澱粉粒には半複粒が認められた。切片の観察では、hilum の部分および澱粉粒の内部が表層部とは異った構造を持つものであることがわかった。また組織のままで切片とした場合の観察では、澱粉粒の形はある程度成長過程において規制されることを認めた。

A-19 諸種貯蔵澱粉粒の形態学的研究 (第2報)

広島大 大道 満子

1. 澱粉の研究に関しては、これまで多くの研究者が報告しているが、更に異った方法を適用して観察する必